

コンピュータ実習

(授業概要)

動物に関わる全ての職業に共通したPCスキル（Word 基礎、Excel 基礎、PowerPoint 基礎を学びレポート作成及び表計算の基礎と応用）を修得できる。

科	生命科学科	教員	林
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位時間	36

目標

1 学期

レポート及び報告書を作成できるようになり、レポートを指定したフォーマットに自分で設定して作成する事が出来るようになる。

2 学期

表計算とグラフ機能を使用して実績等をまとめる事が出来るようになる。

プレゼンテーションの基礎としてアニメーションを組み込んだ発表を出来る様になる。

Excel において効果的に関数を利用した表を作成出来るようになる。

授業計画

1 学期

1回 PC 基礎操作及び授業内容の説明。Google スプレッドシートを軸とした情報共有作業の基礎。

2回 クラウドとローカル両方での保存領域確保。PC スキルチェックテスト。

3回 成績判定について。

4回 アプリ起動方法・Word 画面説明、文字入力、フォントサイズ変更、クラウド保存領域への別名保存。成績評価における提出物保存先の説明と確認。

5回 クラウドからの授業資料ダウンロード、ローカル保存領域への別名保存。授業資料へ画像の挿入及び編集。文章のコピー・貼り付け、揃え。箇条書き設定。

6回 あいさつ文活用法、ビジネス文書課題作成。教科書 P51 から特定の文章のみ変更。

7回 表の挿入、行列の幅変更、セル結合・セル書式設定、段落罫線の設定。

8回 表を利用した文書課題作成、教科書 P98 から特定の文章のみ変更。

9回 ペイントを使用した画面のスクリーンショット、画像編集。挿入した画像と文章の折り返し設定。写真のサイズ・スタイル変更。

10回 前期試験についての説明、テスト対策。

11回 Excel 画面説明、文字入力・データの修正、オートフィルの利用、罫線の使い方、四則演算数式の利用。

12回 SUM・AVERAGE 関数の利用。スプレッドシート上での SUM・AVERAGE 関数の利用。

13回 長期休みと SNS。ネット炎上から見る個人情報管理と情報発信について。

2学期

- 14回 絶対参照、数値の表示設定(桁区切り、パーセント、小数点)、行列の挿入・幅の調節。
- 15回 スプレッドシート上でのデータ入力、フィルターの使用、データの簡易分析。
- 16回 アプリ間データ共有、Excel 表の Word 差し込み。
- 17回 ビジネス文書について。ビジネス文章作成課題、Word での横書き送付状作成。
- 18回 ビジネス文書作成課題。Word での縦書きお礼状作成。
- 19回 ビジネス文書作成課題。Excel での交通費申請書作成、マップアプリによる経路検索。
- 20回 ビジネス文書作成課題。Excel での有給休暇申請用紙作成。
- 21回 PowerPoint 第 0 回 基本操作の説明、画像の挿入。フォントの変更。
- 22回 PowerPoint 第 1 回 プレゼン作成課題の説明、プレゼンデモンストレーション。
- 23回 PowerPoint 第 2 回 プレゼン作成課題準備その 1
- 24回 PowerPoint 第 3 回 プレゼン作成課題準備その 2
- 25回 PowerPoint 第 4 回 プレゼン作成課題準備その 3
- 26回 PowerPoint 第 5 回 プレゼン作成課題準備その 4
- 27回 PowerPoint 第 6 回 プレゼン作成課題準備その 5
- 28回 PowerPoint 第 7 回 プレゼン発表。
- 29回 PowerPoint 第 8 回 発表のフィードバック、声と表現法について。
- 30回 PowerPoint 第 9 回 プレゼン作成課題 2 の説明、プレゼンデモンストレーション。
- 31回 後期試験についての説明、テスト対策。
- 32回 PowerPoint 第 10 回 プレゼン作成課題 2 準備その 1
- 33回 PowerPoint 第 11 回 プレゼン作成課題 2 準備その 2
- 34回 PowerPoint 第 12 回 プレゼン作成課題 2 準備その 3
- 35回 PowerPoint 第 13 回 プレゼン作成課題 2 準備その 4
- 36回 PowerPoint 第 14 回 プレゼン発表、発表のフィードバック。

授業の方法

講義、実演、課題作成

教材

よくわかる Word2016 & Excel2016、よくわかる仕事に使える Excel 関数ブック、
PowerPoint は事前に作成したスライドを使用

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

課題作成を行い、自身で作成するスキルを向上。知らない知識や単語を調べる。

じつむけいけん じゆぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

アナウンス演習Ⅰ

(授業概要)

動物園や自然ガイド、観光牧場に必要となる接客の際に必要な話し方や、立ち振る舞いを身に付ける。

科	生命科学科	教員	竹内
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	72

目標

- 1 学期・表現する楽しさを知る。
- ・表情の豊かさを身に付ける。
 - ・正しい姿勢で美しく歩けるようになる。
 - ・正しい発声ができるようになる。
- 2 学期・発想力を豊かにする。
- ・簡単な生き物解説が出来るようになる。
 - ・対面接客ができるようになる。

授業計画

1 学期

- 1 回 自己紹介, アイスブレイク, 講義について
- 2 回 表情の練習、履歴書写真の撮り方について、喜怒哀楽の表現方法について
- 3 回 正しい姿勢、歩き方について
- 4 回 腹式呼吸、自分の出しやすい音の高さについて
- 5 回 身体を使った表現 ～ジェスチャーゲーム～
- 6 回 ショーパフォーマーとは
- 7 回 好きなもの、嫌いなものについて 準備
- 8 回 好きなもの、嫌いなもの 発表
- 9 回 好きなもの嫌いなもの 発表
- 10 回 接客演習 準備
- 11 回 接客演習 本番 1
- 12 回 接客演習 本番 2
- 13 回 接客演習 本番 3 夏休み課題 早口言葉 滑舌練習

2 学期

- 14 回 夏休み頑張ったことについて 後期目標 早口言葉 発表 1
- 15 回 夏休みに頑張ったことについて発表 後期の目標発表 早口言葉 発表 2
- 16 回 夏休みに頑張ったことについて発表 後期の目標発表 早口言葉 発表 2
- 17 回 自然物の解説文 作成 1

18回 自然物の解説文 作成2 自然物の発表1 試験

19回 自然物の発表2

20回 自然物の発表3

21回 ショー分析1

24回 ショー分析2

25回 解説分析1

26回 解説分析2

27回 飼育棟動物解説準備1

28回 飼育棟動物解説準備2

29回 飼育棟動物解説準備3

30回 ヒーローインタビュー エチュード1

31回 ヒーローインタビュー エチュード2

32回 自己PRについて1

33回 自己PRについて2

34回 自分の好きな芸術作品について 発表準備

35回 自分の好きな芸術作品について 発表1

36回 自分の好きな芸術作品について 発表2

授業の方法

講義、問題演習、実演、グループワーク、プレゼン

教材

動画、生体、自然物など

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

動物園や水族館に行ったり、youtubeで動画を見て、ショーや解説の研究を行う

実務経験と授業科目の関係

元アスレチックインストラクター (GREENIA)

エキゾチックアニマルⅠ

(授業概要)

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、主要4種類（ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット）のペット動物の分類や生体・生態・特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

科	生命科学科	教員	金田・田中
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	72

目標

1 前期

エキゾチックの概要およびペットや飼育動物の定義を習得する。ハムスターの生体や歴史、飼育時の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し飼育動物の基礎を固める。

2 後期

ウサギ・モルモット・フェレットの生体や歴史、飼育時の注意点、病気や症状などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し飼育動物の基礎を固める。

授業計画

前期

- 1回 エキゾチックアニマルとは
- 2回 ペットの適性について
- 3回 ハムスターについて（分類、歴史）
- 4回 ハムスターについて（体の特徴）
- 5回 ハムスターについて（体の特徴）
- 6回 ハムスターについて（生理的な特徴）
- 7回 ハムスターについて（飼育方法）
- 8回 ハムスターについて（繁殖）
- 9回 ハムスターについて（病気）
- 10回 ハムスターについて（病気）
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返し・解答

- 13回 ウサギについて（分類・歴史）
- 14回 ウサギについて（体の特徴）

後期

- 15回 ウサギについて（体の特徴）
- 16回 ウサギについて（生理的な特徴）

- 17回 ウサギについて（飼育方法）
- 18回 ウサギについて（繁殖）
- 19回 ウサギについて（病気）
- 20回 ウサギについて（病気）
- 21回 モルモットについて（分類・歴史）
- 22回 モルモットについて（体の特徴）
- 23回 モルモットについて（体の特徴）
- 24回 モルモットについて（生理的な特徴）
- 25回 モルモットについて（飼育方法・繁殖）
- 26回 モルモットについて（繁殖）
- 27回 モルモットについて（病気）
- 28回 モルモットについて（病気）
- 29回 フェレットについて（分類・歴史）
- 30回 フェレットについて（体の特徴）
- 31回 フェレットについて（生理的な特徴）
- 32回 フェレットについて（飼育方法）
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返し・解答
- 35回 フェレットについて（病気）
- 36回 1年の振り返り課題

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義

きょうざい
教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自まとめなおし、随時チェックする。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

トレーニング概論・実習Ⅰ

(授業概要) 人と犬とのより良い共生生活に必要な家庭犬としてのしつけやマナーについて学びます。犬のトレーニングを通して動物への行動の教え方を学びます。

科	生命科学科	教員	釘宮
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36×2時間

目標

1 学期

家畜化された犬の歴史を学び犬種に対する知識を深めます。

犬種による特性と行動、学習の仕方について学びます。

人間や人間社会に慣れるために仔犬期に何を行わないといけないか学びます。

実技【・リードの付け外し・ケージへの入れ方・アイコンタクト・ターゲットタッチ】

2 学期

犬のボディシグナルを学ぶことで犬の意思や気持ちを理解することができます。

犬のストレスの原因と解消の仕方を学ぶことができます。

実技【・お座り、伏せ、立て・ヒールポジション・待て】

授業計画

1 学期

1 回 犬の進化と家畜化

2 回 犬の気質

3 回 犬の散歩

4 回 家庭犬のトレーニング 実技①

5 回 犬種について

6 回 家庭犬のトレーニング 実技②

7 回 脳と行動の関係

8 回 家庭犬のトレーニング 実技③

9 回 仔犬の社会化

10 回 家庭犬のトレーニング 実技④

11 回 筆記試験

12 回 実技試験

13 回 テスト返却・解答

14 回 家庭犬のトレーニング 実技⑤

2 学期

- 15回 社会的階級制度
- 16回 家庭犬のトレーニング 実技⑥
- 17回 犬の言葉/ボディシグナル(1)
- 18回 家庭犬のトレーニング 実技⑦
- 19回 犬の言葉/ボディシグナル(2)
- 20回 家庭犬のトレーニング 実技⑧
- 21回 社会的闘争の解決(1)
- 22回 家庭犬のトレーニング 実技⑨
- 23回 社会的闘争の解決(2)
- 24回 家庭犬のトレーニング 実技⑩
- 25回 犬のストレス
- 26回 家庭犬のトレーニング 実技⑪
- 27回 カーミングシグナル(1)
- 28回 家庭犬のトレーニング 実技⑫
- 29回 カーミングシグナル(2)
- 30回 家庭犬のトレーニング 実技⑬
- 31回 犬の言葉まとめ
- 32回 家庭犬のトレーニング 実技⑭
- 33回 テストリハーサル
- 34回 筆記テスト
- 35回 実技テスト
- 36回 テスト返却・解答

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義 実習

きょうざい
教材

犬のしつけ方教室 テリーライアン著

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80% 授業毎に記入する実習記録評価 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

ビジネスマナー

(授業概要)

ビジネスマナーは社会人にとっての基本となります。

例えば目を合わせて挨拶が出来ない、言葉の使い方がおかしい、名刺交換の仕方を知らない、上座がどこか分からないなど、「ビジネスマナーの基本を身につけていない人」をみなさんは信用、信頼ができますか？

この科目では社会人として基本的に必要なビジネスマナーを理解、実践ができるようになる事を目的とし、人間関係や信頼関係を構築できるようになる事とします。

科	生命科学科	教員	荻野 将士
コース	DOG,TEP,WLD	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位時間	36

目標

1 学期

就職活動やインターンシップでの重要となる書類である履歴書とお礼状。

この2つの書き方やマナーを知り、正しく書けるようになる事。

スーツの着方(男性の場合は身だしなみやネクタイの結び方など、女性の場合も身だしなみやアクセサリなど)の間違いと正解を区別できるようになる。

立ち方やお辞儀の仕方などの所作を身につける。

敬語(丁寧、謙譲語、尊敬語)の差別化をして理解し話せるようになる。

現代の最新のビジネスマナーでもあるリモートワークマナーを知る。

席次(上座と下座)、名刺交換の基本を理解し実践ができるようになる。

2 学期

電話対応の基本を理解する。

ビジネス文書のシーンに合った使い分けが出来るようになる。

封筒の基本と宛名の書き方に関するマナー理解できるようになる。

冠婚葬祭のマナーを理解できるようになる事。

食事と飲み会に関するビジネスマナーがある事を知り、理解できるようになる。

ビジネスで使われる用語の語句と意味を覚え、理解し使えるようになる。

授業計画

1 学期

1回 自己紹介(自分の長所、短所、趣味など面接でよく聞かれる項目も入れて発表を行う)

2回 学校でのエレベータの使い方、受付の利用の仕方、校舎見学

3回 履歴書の書き方①(個人情報の書き方について)

4回 履歴書の書き方②(志望動機、セールスポイントなどの自己PRの書き方)

5回 履歴書の書き方③(資格、好きな科目などの書き方)

- 6回 お礼状の書き方・実践①
- 7回 お礼状の書き方・実践②
- 8回 お礼状の書き方・実践③
- 9回 封筒の書き方・送り方①
- 10回 封筒の書き方・送り方②
- 11回 ビジネス会話の基本①(敬語について)
- 12回 ビジネス会話の基本②(定番の言い回し、クッション言葉)
- 13回 席次①(上座と下座について)
- 14回 席次②(シチュエーション別の席次、実践)
- 15回 会社での挨拶の仕方、立ち方、お辞儀の基本、椅子の座り方、入退室の基本。
- 16回 試験対策(復習課題)
- 17回 試験
- 18回 試験フィードバック

2学期

- 19回 電話応対
- 20回 ビジネス文書①(紙文書)
- 21回 ビジネス文書②(メール)
- 22回 ビジネス文書③(FAX)
- 23回 リモートワークマナー
- 24回 名刺交換(名刺交換の基本、同時交換、複数交換)①
- 25回 名刺交換(実践)②
- 26回 履歴書復習
- 27回 求人票の見方
- 28回 ビジネス用語について①(基本編)
- 29回 ビジネス用語について②(求人編)
- 30回 ホウレンソウ、5W3Hについて、人間関係のマナー
- 31回 お礼状復習
- 32回 雇用形態について
- 33回 会社での役職の序列と役割について
- 34回 試験対策(復習課題)
- 35回 試験
- 36回 試験フィードバック

きょうざい
教材

プリント配布

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

校内やプライベートでも意識して実践をする。

例えばエレベータにて席次を意識して乗る事。先生やアルバイト先の先輩・店長など常日頃、敬語(丁寧語、尊敬語)を意識して話すなど。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

ワイルド実習

(授業概要)

インターンシップに向けての説明、就職に関する説明、特別講義、イベント準備、面談を行う

科	生命科学科	教員	金田
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36×4時間

目標

1学期・2学期

個人の目標、現状を明確にしてどのように目標に達するかを決める。

インターンシップについて理解し、行動する。特別講義にて職業理解を深め、インターンシップ活動や就職活動に活かす。

イベント準備にて、企画・実践・協調性を身につける。

授業計画

前期

1回 学校生活および就職までの流れについて

2回 面談

3回 インターンシップについて・面談

4回 研修旅行についての説明

5回 特別講義

6回 特別講義

7回 面談・研修旅行最終確認

8回 研修旅行

9回 面談

10回 面談

11回 試験についての説明・面談

12回 面談

13回 面談

14回 特別講義

15回 面談

後期

16回 イベント企画・準備

17回 イベント準備

- 18回 イベント準備
- 19回 研修旅行説明
- 20回 イベント準備
- 21回 イベント準備
- 22回 イベント準備
- 23回 イベント準備
- 24回 イベント準備
- 25回 面談
- 26回 面談
- 27回 企業セミナー振り返り
- 28回 面談
- 29回 面談
- 30回 面談
- 31回 特別講義
- 32回 課題
- 33回 特別講義
- 34回 課題
- 35回 課題
- 36回 進級についての説明

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

きょうざい
教材

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

両生爬虫類学 I

(授業概要)

動物界における両生類と爬虫類の特徴について基礎的なことを学ぶ。多種多様な両生爬虫類の飼育方法については、前例がなく、自ら考案せねばならぬ種も多いので、その考え方についても理解してゆく。

科	生命科学科	教員	大淵
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36時間

目標

1 学期

主に爬虫類の動物学的特徴について包括的に理解する。

2 学期

主に両生類の動物学的特徴について包括的に理解する。

授業計画

1 学期

- 1回 自己紹介、アイスブレイク、講義について
- 2回 両生爬虫類を含む動物の分類
- 3回 変温、恒温など両生爬虫類の生理について
- 4回 卵の構造
- 5回 両生爬虫類の生態
- 6回 両生爬虫類の生態
- 7回 両生爬虫類の分類学的特徴
- 8回 両生爬虫類の計測、生息環境
- 9回 ワニ目、カメ目について
- 10回 試験対策
- 11回 試験
- 12回 試験フィードバック
- 13回 フィールドにおける両生爬虫類
- 14回 2学期にむけて

2 学期

- 15回 1学期の復習など
- 16回 ワニの生態 1
- 17回 ワニの生態 2

- 18回 心臓のつくり
- 19回 カメの甲羅
- 20回 カメの分類
- 21回 カメの共生生物
- 22回 カメの生態（日本産） 1
- 23回 カメの生態（日本産） 2
- 24回 カメの生態（ウミガメ） 1
- 25回 カメの生態（ウミガメ） 2
- 26回 呼吸について
- 27回 有鱗目 1
- 28回 有鱗目 2
- 29回 有鱗目 3
- 30回 冬期に見られる両生爬虫類（冬休みを前に）
- 31回 これまでの振り返り
- 32回 両生爬虫類の各目について
- 33回 試験対策
- 34回 試験
- 35回 試験フィードバック
- 36回 総括

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、実演、プレゼン、各種動画など

きょうざい
教材

学研の図鑑 LIVE ポケット「爬虫類・両生類」

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

上野動物園両生爬虫類館での実務経験ほか。

人間形成概論

(授業概要)

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。
心身ともに健康な生活を送るために必要なヘルスリテラシーを身につける。

科	生命科学科	教員	中野美和子
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

目標

1 学期

人間の身体と心の関係、人間関係の基本である自己概念について考える。次いで、対人認知に関わる理論と実際を学び、考える。

2 学期

基礎的なコミュニケーションの概略を学び、次いで集団での行動、心理について学び、集団の一員として働き方、コーチングを含めた成人教育について学び、考える。

健康についてのリテラシー、生活習慣病の予防について学び、職場でのストレスへの対処力を身につけ、健康で有意義な人生を送る一助とする。

授業計画

1 学期

- 1回 アイスブレイクを兼ねた講師の自己紹介、人間の身体と心の関係
- 2回 自律神経とストレスの関係、自律神経の整え方
- 3回 自己認識・評価、リフレーミング
- 4回 自分を大事にする、self-compassion
- 5回 自尊感情 (self-esteem)、自己主張 assertive
- 6回 対人感受性、心の理論、
- 7回 印象形成、対人認知とその歪み
- 8～10回 対人認知の歪み：ステレオタイプ、偏見、透明性錯覚、現状維持バイアスなど
- 11回 試験対策、
- 12回 試験、あるいはレポート、
- 13回 試験のフィードバック

2 学期

- 14～15回 コミュニケーションの概略、不適切表現
- 16回 内集団、内集団ひいき、集団圧力、同調、傍観者効果
- 17回 集団、集団浅慮、集団心理～群集心理、社会的手抜き

18~19回 リーダーシップ、チームで仕事をするについて
20~22回 成人教育、コーチングとフォローアップ
23回 ヘルスリテラシー、日本人の寿命と主な死因の現況、日本の健康政策
24~28回 生活習慣病の概要とその予防：がん、循環器疾患・高血圧、糖尿病・脂質異常、COPD
29回 飲酒、依存症、歯科疾患の概況と予防、
30~31回 睡眠、疲労、メンタルヘルス
32回 試験対策、
33回 試験、レポート、
34回 試験、レポートのフィードバック
35~36回 感情処理、ストレス、ストレス対処

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、問題についてのレポートと討論、グループワーク

きょうざい
教材

適切な教科書がないため、試験対策時に講義内容をまとめたプリントを配布する。

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験・レポート提出 90%、じゅぎょうたいど 授業態度10%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

自分自身の経験を考察するレポートを書く。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

公衆衛生 I

(授業概要)

本来はヒトの健康維持・増進を目的とする学問だが、疾患や環境問題の要因には動物との接触に起因するものも多数存在する。そこで、動物を扱うものとして共生社会を追究すべく、広く公衆衛生に関する知識を習得し、動物に関わる仕事全般に役立てる。

か科	生命科学科	きょういん 教員	花木
コース	ワイルドアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしやうねんじ 対象年次	1年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	36

もくひやう 目標

1 学期

人獣共通感染症について学び、説明できるようになる。

2 学期

寄生虫疾患と食中毒について学び、説明できるようになる。

じゆぎくうけいかく 授業計画

1 学期

- 1回 公衆衛生学を知る(1)
- 2回 公衆衛生学を知る(1)、公衆衛生の捉え方(1)
- 3回 公衆衛生の捉え方(2)
- 4回 人獣共通感染症学総論(感染、疫学、予防)
- 5回 人獣共通感染症学各論(細菌性疾患)(1)
- 6回 人獣共通感染症学各論(細菌性疾患)(2)
- 7回 人獣共通感染症学各論(細菌性疾患)(3)
- 8回 人獣共通感染症学各論(細菌性疾患)(4)
- 9回 人獣共通感染症学各論(細菌性疾患)(5)
- 10回 人獣共通感染症学各論(リケッチア性疾患)(6)
- 11回 人獣共通感染症学各論(リケッチア性疾患、ウイルス性疾患)(7)
- 12回 試験
- 13回 試験返却
- 14回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(8)

2 学期

- 15回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(9)
- 16回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(10)

- 17回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(11)
- 18回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(12)
- 19回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(13)
- 20回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(14)
- 21回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(15)
- 22回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(16)
- 23回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(17)
- 24回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(18)
- 25回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(19)
- 26回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(20)
- 27回 食品衛生学総論
- 28回 食品衛生学各論(食中毒)(1)
- 29回 食品衛生学各論(食中毒)(2)
- 30回 食品衛生学各論(食中毒)(3)
- 31回 試験
- 32回 試験返却
- 33回 食品衛生学各論(食中毒)(4)
- 34回 食品衛生学各論(食中毒)(5)
- 35回 食品衛生学各論(食中毒)(6)
- 36回 総復習

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

座学

きょうざい
教材

自作プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

ノートを纏めなおし、授業前に教員に提示する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

動物園学 I

(授業概要)

動物園の社会的役割（種の保存、環境教育、調査研究、娯楽）、動物園の展示手法、動物飼育にあたっての基礎知識（動物福祉、エンリッチメントなど）を理解する

科	生命科学科	教員	花木久実子
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36時間

目標

1 学期

動物園の存在意義について考える
西欧と日本の動物園の歴史について学習する
現在の日本の動物園の現状と課題について考える

2 学期

動物園における種の保存について学習する
動物園での飼育係、獣医師の役割について学習する
動物福祉、エンリッチメントについて学習する

授業計画

1 学期

- 1回 動物園の存在意義
- 2回 西欧の動物園の歴史
- 3回 西欧の動物園の歴史 シェーンブルン動物園 (DVD)
- 4回 日本の動物園の歴史
- 5回 日本の動物園の歴史 DVD
- 6回 動物園の文化
- 7回 動物園の生物学
- 8回 動物園の保全生物学 1
- 9回 動物園の保全生物学 2
- 10回 前期総括
- 11回 前期試験
- 12回 試験解答と解説

13回 生息域内保全と生息域外保全

14回 野生復帰への取り組み

2学期

15回 飼育施設と飼育管理

16回 動物園の獣医師の仕事

17回 動物園の飼育係の仕事

18回 動物園の展示 動物園

19回 動物園の展示 水族館

20回 カール・ハーゲンバック

21回 アメリカ ヘンリー・ドリー動物園 (DVD)

22回 スイス チューリッヒ動物園 (DVD)

23回 動物福祉とエンリッチメント1

24回 動物福祉とエンリッチメント2

25回 個体管理と記録管理

26回 動物園のコレクションプラン

27回 動物園での飼育繁殖1

28回 動物園での飼育繁殖2

29回 動物園の危機管理

30回 動物の繁殖と子育て

31回 動物の栄養

32回 後期総括

33回 後期試験

34回 試験解答と解説

35回 生類憐れみの令

36回 生類憐れみの令 (DVD)

授業の方法

テキスト、パワーポイントを使用した講義及び DVD の鑑賞

教材

テキスト、朝倉書店「動物学入門」、市販 DVD

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

身近な動物園や水族館へ行き、授業内容を深める

じつむけいけん じゅぎょうかちく かんけい
実務経験と授業科目の関係

神戸市立王子動物園副園長及び動物園獣医師としての実務経験を踏まえて授業を行う

動物学習心理学（WILD1 年）

（授業概要）

「レスポンド条件付」と「オペラント条件付け」に基づいた、近代的な飼育動物の行動マネジメント理論と技術は、海洋哺乳類の行動マネジメント、特に大型の海洋哺乳類において発展したものである。しかし近年ではこうした理論や技術が、動物園などで陸生の哺乳類や鳥類、爬虫類などに対しても活用されるようになってきた。

しかしながら動物の主体性を尊重するといった基本理念は伝わっておらず、技術的にも間違った運用をされていることが多い。

この授業では動物園などで初級から中級レベルまでの動物の行動マネジメントを適切に行うために、正しく理解されなければならない理論と技術を講義してゆく。*海洋哺乳類のトレーナーであれば、シニア初級レベルに理解・実践が要求される事項。

また飼育動物に対して運用される技術とその基盤となる理論は野生動物の保全にも効果的に応用される。こうしたことは元シェッド水族館のトレーナーで、現在は Karen Pryor Clicker Training (KPCT) の役員である Ken Ramirez などが実際に証明済みである。

科	生命科学科	教員	山本 聡
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36

目標

1 学期

まず水族館の 5 つの機能とトレーナーとしての責任・義務を具体的な例を動画で紹介しながら説明してゆく。そして学生たちはそれらを正しく認識・理解し、自分の言葉で、それらを明確に述べられるようになってもらう。

次に主にエントリー・レベルの飼育係・トレーナーが絶対に理解していなければならない基本理論を他者に説明できるようになる。その中ではレスポンド条件付けもオペラント条件づけも連合学習であること、その一方で 2 つの事項の随伴性に違いがあることが正しく認識されていなければならない。

またブリッジが条件刺激であることを認識出来、多様なブリッジを適切に使いわけできるようになる。

2 学期

オペラント条件付けのメカニズムおよびオペラント条件付けの「正」と「負」を正しく理解し、自分の言葉で説明できるようになる。動物の行動について、それをどう変容させるか (HOW) ではなく、そもそもなぜそのような、変容させたい行動を動物がするのか (WHY) の観点から考えることを習慣づける。

また何故、不定率強化のみが動物の、特定の行動をしようという動機水準を高く保つ事ができるのかを正しく理解し、具体的な例を持って説明出来るようにならねばならない。

ただし強化に用いられる強化子に高い報酬性がなければいけないこと、多様な強化子を活用しなければならないことを強く認識させ、報酬性の高い、様々な強化子を使おうと心がけるトレーナー候補者へと学生を変化させてゆく。

1 学期

- 1 回目 授業の受け方、ノートの取り方、SNS を正しく使うためのリテラシーについて学ぶ。
- 2 回目 データマイニングのコツ、注意点について学び、英語で勉強することの重要性を認識する。
- 3 回目 動物園や動物のふれあいプログラムを行う施設の5つの機能と飼育係の責任と義務について学ぶ。
- 4 回目 ゲストにまず何を伝えるのか、感じてもらうのか。
- 5 回目 San Diego Zoo の チーター・ランの動画紹介とその解説
SeaWold のシャチのショー“Believe”の一部紹介とその解説。
- 6 回目 連合学習と随伴性、随伴性と期待（レスポナント条件付けとオペラント条件付けの違い）。
- 8 回目 レスポナント条件付けとブリッジ
- 9 回目 オペラント条件付けの強化と罰。罰とは何か。
- 10 回目 先手をうつ為の弁別性刺激。オペラント条件付けの原理はブリッジを要求する。
- 11 回目 連続強化と強化子の報酬性と多様性について。
- 12 回目 前期試験
- 13 回目 前期試験の返却と解答についての解説。
- 14 回目 間歇強化の定と不定：なぜ不定率強化を使うのか。
- 15 回目 オペラント条件付けの3項随伴性とABC分析（HowではなくWhyを考える）。

2 学期

- 16 回目 ヒト（飼育係）と動物の関係は1：1 サイン出し、ブリッジ、強化は一人が行う。
- 17 回目 生き物は間違える、動物は飼育係の鏡、些細な異常行動は無視する。
- 18 回目 ハズバンドリーとは、ハズバンドリー行動とそれに伴う嫌悪刺激。
- 19 回目 脱感作のメカニズムと脱感作の3つのタイプ
- 20 回目 ふれあいプログラムの脱感作と
- 21 回目 連続強化と間歇強化、連続強化と強化子の報酬性、非予測性。
- 22 回目 強化子の多様性とは、選好テストのやり方。間歇強化の「定」と動機水準の変動。
- 23 回目 行動マネージメントにおける非予測性、パターンを作らない事。動物を混乱させない事。
- 24 回目 不定間隔強化と不定率強化の違い。なぜ不定率強化が動物の行動マネージメントに適しているのか。
- 25 回目 不定率強化に対する誤解と落とし穴。
- 26 回目 動物の心の病とその症状としての異常行動。ローレル・ブライトマンのTEDプレゼンテーション。。
- 27 回目 強化すべきポイントは複数あること。強化の基準の設定とその順守。強化のマグニチュード。
- 28 回目 動物の攻撃性と飼育環境。物理的隔離とPCトレーニング
- 29 回目 FC トレーニングとゲート。
- 30 回目 LRS と LRS の適切な運用。
- 31 回目 DRL, DRI, DRO。
- 32 回目 タイムアウトとリコール。
- 33 回目 ゲートのタイプ、安全管理（危機管理）
- 34 回目 A-B トレーニング。
- 35 回目 後期試験
- 36 回目 後期試験の返却と解答についての解説。
エラーレス法とライバルトレーニング。

授業の方法

基本的に毎月2回は対面授業を行い、それ以外はオンデマンド形式の授業で行う。

教材

特に無いが、参考資料としては"Carrots and Sticks -Principles of Animal Training" (著者) P. McGreen and R. Boakes (出版社) Cambridge University Press、“Zoo Animal Learning and Training” (著者) V.A. Melfi, N.R. Dorey, and S.J.Ward (出版社) Wiley Blackwell といった専門書や、Zoospensefull の運営するサイト (<https://zoospensefull.com/>) や、SeaWorld と Bush Garden が運営する”All about animal training“というサイト (<https://seaworld.org/animals/all-about/training/>) などがあるが、前述以外のソースについては必要や学生の興味に応じて随時紹介する。

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

毎回の授業中にとったメモを基に、良く分からなかったこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことについて自分で調べ、それらを整理しまとめたものを自分のことばで書いたまとめノートを作成する。授業において指定された動画を Google で検索し視聴する。

実務経験と授業科目の関係

あり：専門は比較認知学、行動生態学、海洋哺乳類学、動物の行動マネジメント。ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所および同大学海洋生物研究所・海洋哺乳類プログラムで研究員兼トレーナーを務める。特に前者ではザトウクジラ生態とハンドウイルカの認知機能の研究に携わり、後者では海洋哺乳類の知覚能力の実験研究と動物の健康管理に携わる。日本では沖縄海洋研究所、あわしまマリンパークの飼育顧問を務め、南知多ビーチランドで飼育・研究アドバイザーを務める。国際海洋動物トレーナー協会会員。

動物機能形態学

(授業概要)

地球上の生物は多様であり、それぞれが生息環境に合わせて様々な進化を遂げてきた。飼育員が動物の健康をまもっていくためには、動物の体のしくみを知ることが必要不可欠である。この授業では、哺乳類と鳥類の体のしくみ（機能と形態）を学ぶ。

科	生命科学科	教員	笹野 聡美
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36時間

目標

1学期

動物の体のつくりを学ぶ。

哺乳類の骨、筋肉、皮膚や爪、角などの構造と役割を理解し、飼育管理に生かせるようになる。

2学期

哺乳類の感覚器や内臓、鳥類の体のしくみを学び、飼育管理に生かせるようになる。

授業計画

1学期

- 1回 講師の自己紹介。この授業の目的と目標
- 2回 哺乳類の骨、全身骨格
- 3回 哺乳類の骨、各論
- 4回 哺乳類の骨、関節
- 5回 消化器、歯の構造
- 6回 様々な歯、食性による歯の違い
- 7回 嚥下のしくみ
- 8回 食道の構造と役割
- 9回 胃の構造と役割
- 10回 試験対策
- 11回 前期試験
- 12回 試験解説
- 13回 様々な胃
- 14回 腸の構造と役割

2学期

- 15回 様々な腸
- 16回 前胃発酵動物と後腸発酵動物
- 17回 草食動物の食性 ブラウザーとグレーザー
- 18回 植物の栄養
- 19回 肉食動物の食べ物

- 20回 肝臓と膵臓の構造と役割
- 21回 本当の消化
- 22回 泌尿器の構造、動物はなぜ尿を出すのか
- 23回 泌尿器、腎臓の構造
- 24回 尿が出るまで
- 25回 試験対策
- 26回 後期試験
- 27回 試験の解説
- 28回 肺の構造と役割
- 29回 なぜ血液が必要か
- 30回 感覚器、眼の構造と動物の特殊な視覚
- 31回 感覚器、耳の構造と動物の特殊な聴覚
- 32回 感覚器、鼻の構造と動物の特殊な嗅覚
- 33回 鳥類の体、飛行するための構造
- 34回 鳥類の体、羽根の構造、役割、色
- 35回 鳥類の体、内臓
- 36回 鳥類の感覚器

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

パワーポイントによるオンデマンド授業および対面授業

きょうざい
教材

特にありません。

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

動物や生物系の書籍を読んで下さい。動物園や博物館を見学して下さい。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

経歴：秋吉台自然動物公園獣医師、グアテマラ野生動物保護センター獣医師。現在：往診専門獣医療開業（対象動物：観光施設展示動物園・愛玩動物、保護犬・野生動物）、野生動物医学会会員、野生動物保全繁殖研究会理事。 出版（翻訳、監訳）：「野生動物医学」「インコとオウムの行動学」「鳥類の人工孵化と育雛」

動物生態学 I

(授業概要)

動物園の飼育者は、飼育対象の動物以外に餌生物や飼育環境下に生息する多くの動物の知識が求められる。生物の生存するために必要な行動は、種は違えども多くの種で共通する。本講義では昆虫からほ乳類、植物など幅広く紹介しながら、動物の生態を解説する。

科目	生命科学科	教員	佐崎
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36時間

目標

1学期

- ・生物分類技能検定4級の合格

2学期

- ・生物分類技能検定4級の合格
- ・自然環境下での生態を理解したうえで、飼育管理ができるようになる。
- ・飼育動物にストレスを与えないような、環境エンリッチメントを考えることができるようになる。

授業計画

1学期

- 1回 動物生態学とは、生物の名前（和名、英名、地方名、学名）
- 2回 生物の分類①（分類の方法、階級、種、）
- 3回 生物の系統①（原核生物、原生生物とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 4回 生物の系統②（菌界、植物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 5回 生物の系統③（植物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 6回 生物の系統④（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 7回 生物の系統⑤（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 8回 植物のスケッチの基本（葉脈、花の特徴）
- 9回 西表研修旅行（現地で講義及び体験実習）
- 10回 西表出張（課題対応）

- 11回 生物分類 4 級 過去問練習、解説①
- 12回 生物分類 4 級 過去問練習、解説②
- 13回 前期試験
- 14回 前期試験の振り返り、生物分類 4 級 過去問練習、解説③
- 15回 生物分類 4 級 過去問練習、解説④

夏休み中（2022年度は 8/13～9/30）に生物分類技能検定 4 級を受験

2 学期

- 16回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑤
- 17回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑥
- 18回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑦
- 19回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑧
- 20回 生物と環境①（作用：ベルクマンの法則）
- 21回 生物と環境②（作用：アレンの法則）
- 22回 生物と環境③（反作用）
- 23回 生物と環境④（相互作用：種内競争、種間競争、植物）
- 24回 生物と環境⑤（相互作用：植物、動物、干渉作用）
- 25回 生物と環境⑥（相互作用：動物、なわばりと行動圏）
- 26回 生物と環境⑦（相互作用：動物、なわばりと行動圏）
- 27回 本試験テスト対策①（過去問の振り返り、確認）
- 28回 本試験テスト対策②（過去問の振り返り、確認）
- 29回 本試験の解答と解説
- 30回 擬態と擬装について（種内競争：眼状紋、制服擬態）
- 31回 擬態と擬装について（偽物型擬態、攻撃擬態）
- 32回 擬態と擬装について（猛毒型擬態）
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験の振り返り
- 35回 異種間との関係（共生：相利共生、片利共生、片害）
- 36回 異種間との関係（中立、寄生）、生態系における異種間との種間関係の意義

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

具体例を用いて講義する

きょうざい
教材

生物分類技能検定 4 級の過去問、生物図表

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業だけではなく、身近な自然、生物に関心を持って観察する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

生物分類技能検定をもっている

動物関連法規学Ⅰ

(授業概要)

動物を扱う仕事（動物園飼育員など）を行う上で必要となる動物に関する法律を身につける。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

目標

1 学期

法律の仕組み、狂犬病予防法などを理解し説明できるようになる。

2 学期

動物愛護法などを理解し説明できるようになる。

授業計画

1 学期

- 1回 授業概要説明
- 2回 法律の仕組み
- 3回 狂犬病予防法（1）狂犬病の特徴
- 4回 狂犬病予防法（2）狂犬病の特徴
- 5回 狂犬病予防法（3）狂犬病予防法の概要（施行年、目的など）
- 6回 狂犬病予防法（4）対象動物、輸入禁止動物
- 7回 狂犬病予防法（5）飼い主などの義務（畜犬登録など）
- 8回 狂犬病予防法（6）飼い主などの義務（罰則など）
- 9回 動物が亡くなった後に注意すべき事柄（1）（化製場法、廃棄物処理法など）
- 10回 動物が亡くなった後に注意すべき事柄（2）（墓地埋葬法など）
- 11回 動物が亡くなった後に注意すべき事柄（3）（墓地埋葬法など）
- 12回 前期試験
- 13回 前期試験返却・解説
- 14回 ペットフード安全法（1）法の成立の背景
- 15回 ペットフード安全法（2）ペットフードの定義
- 16回 ペットフード安全法（3）製造者などの義務
- 17回 ペットフード安全法（4）成分・表示義務

2 学期

- 18回 前期振り返り
- 19回 動物愛護法（1）法の制定の背景・経緯

- 20回 動物愛護法（2）法の制定の背景・経緯
- 21回 動物愛護法（3）目的、基本原則
- 22回 動物愛護法（4）飼い主の責務
- 23回 動物愛護法（5）飼い主の責務
- 24回 動物愛護法（6）動物虐待（愛護動物）
- 25回 動物愛護法（7）動物虐待（罰則）
- 26回 動物愛護法（8）動物虐待（虐待の定義）
- 27回 後期試験
- 28回 後期試験返却・解説
- 29回 動物愛護法（9）動物取扱業（定義・業種）
- 30回 動物愛護法（10）動物取扱業（第一種動物取扱業者の義務）
- 31回 動物愛護法（11）動物取扱業（第一種動物取扱業者の義務）
- 32回 動物愛護法（12）動物取扱業（第一種動物取扱業者の義務）
- 33回 動物愛護法（13）動物取扱業（第二種動物取扱業）
- 34回 動物愛護法（14）特定動物
- 35回 動物愛護法（15）自治体の役割、マイクロチップ装着
- 36回 1年総復習

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義

きょうざい
教材

なし

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

1回1回の授業ノートやプリントに関しポイントをまとめ直し、随時チェックする。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

基礎健康管理学 I

(授業概要)

動物園などの陸上大型動物の飼育員になるために必要な管理方法や知識について、犬や猫といった身近なペット動物を中心に日常的な健康管理や予防について学び、実践できるようになる

科	生命科学科	教員	石原
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	36

目標

1 学期

犬や猫の日常的な健康管理と予防について学び、正常時と異常時の違いを理解する

2 学期

1 学期に引き続き健康学と予防について学ぶ。またそれらを基礎とし、様々な疾患について理解する

授業計画

1 学期

- 1 回 第一章「日常の健康管理」散歩・運動について
 - 2 回 第一章「日常の健康管理」排尿・排便について①
 - 3 回 第一章「日常の健康管理」排尿・排便について②
 - 4 回 第一章「日常の健康管理」全身の手入れについて①
 - 5 回 第一章「日常の健康管理」全身の手入れについて②
 - 6 回 第一章「日常の健康管理」全身の手入れについて③
 - 7 回 第一章「日常の健康管理」口腔衛生について①
 - 8 回 第一章「日常の健康管理」口腔衛生について②
 - 9 回 第一章「日常の健康管理」ワクチンについて①
 - 10 回 第一章「日常の健康管理」ワクチンについて②
 - 11 回 前期試験
 - 12 回 前期試験返し・解答
 - 13 回 第一章「日常の健康管理」犬の登録について
 - 14 回 第一章「日常の健康管理」避妊、去勢について
- ### 1 学期
- 15 回 第一章「日常の健康管理」犬糸状虫症について①
 - 16 回 第一章「日常の健康管理」犬糸状虫症について②
 - 17 回 第一章「日常の健康管理」外部寄生虫について①
 - 18 回 第一章「日常の健康管理」外部寄生虫について②
 - 19 回 第一章「日常の健康管理」外部寄生虫について③

- 20回 第一章「日常の健康管理」腸管内寄生虫について①
- 21回 第一章「日常の健康管理」腸管内寄生虫について②
- 22回 第一章「日常の健康管理」腸管内寄生虫について③
- 23回 第二章「食餌管の管理」栄養の基礎的知識について①
- 24回 第二章「食餌管の管理」栄養の基礎的知識について②
- 25回 第二章「食餌管の管理」食事を与える際の注意について①
- 26回 第二章「食餌管の管理」食事を与える際の注意について②
- 27回 第二章「食餌管の管理」自家製フード、市販フードについて
- 28回 第二章「食餌管の管理」肥満と食事について
- 29回 第三章「応急処置」動物の状態確認について
- 30回 第三章「応急処置」外傷の応急処置について
- 31回 第三章「応急処置」その他の応急処置について
- 32回 後期試験
- 33回 後期試験返し・解答
- 34回 第一章、第二章の振り返り
- 35回 課題
- 36回 総復習

授業の方法

講義

教材

コンパニオンアニマルの健康管理学（教科書）、動物

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

なし

実務経験と授業科目の関係

あり

基礎生物学

(授業概要)

高校の生物の復習を基本に、身近な生物や人体について、より深く実感を持って理解する。

科	生命科学科	教員	黒川 花
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	
対象年次	1年	年間単位時間	36

目標

1 学期…細胞と遺伝の法則等について理解する。

2 学期…主な臓器、免疫の仕組み、生命の変遷、生物学の基本について学ぶ。

授業計画

1 学期

- 1 回 細胞の構造(1)
- 2 回 細胞の構造(2)
- 3 回 生体を構成する物質
- 4 回 タンパク質、酵素
- 5 回 遺伝子とゲノム
- 6 回 遺伝、メンデルの法則(1)
- 7 回 遺伝、メンデルの法則(2)
- 8 回 いろいろな遺伝
- 9 回 ヒトと遺伝
- 10 回 恒常性、体液、循環系
- 11 回 肝臓
- 12 回 前期試験
- 13 回 前期試験返却、答合わせ
- 14 回 動物の組織と器官

2 学期

- 15 回 復習
- 16 回 腎臓
- 17 回 消化器系
- 18 回 神経と感覚
- 19 回 自律神経
- 20 回 ホルモン
- 21 回 生体防御(1)

22回 生体防御(2)免疫と疾病

23回 小テスト

24回 46億年(1)

25回 46億年(2)

26回 自習

27回 進化と形態

28回 分類

29回 学名

30回 系統樹。ドメイン

31回 原核生物界、原生生物界

32回 植物界。菌界

33回 動物界

34回 後期試験

35回 後期試験返却、答合わせ

36回 総復習

授業じゅぎょうの方法ほうほう

教材と印刷物配布

教材きょうざい

浜島書店『生物図表』

評価ひょうかの方法ほうほう

期末試験きまつしけん、80%、授業態度じゅぎょうたいど20%

授業外じゅぎょうがいでの学習方法がくしゅうほうほう

特になし。

実務経験じつむけいけんと授業科目じゅぎょうかもくの関係かんけい

家畜学 I

(授業概要)

人間生活を支えている家畜の役割と動向、家畜の生理生態、飼料の生産と利用を学ぶ

科	生命科学科	教員	金田
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36

目標

1 学期

家畜動物とはどのように人とつながっているのか、社会的役割はどのようにになっているのかを理解する。
家畜動物であるウシおよびブタについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

2 学期

家畜動物であるブタおよびウマ、ニワトリについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

授業計画

前期

- 1回 家畜動物の定義
- 2回 ウシの概要について①
- 3回 ウシの概要について②、ウシの体の構造について①
- 4回 ウシの体の構造について②
- 5回 ウシの体の構造について③
- 6回 ウシの品種について、ウシの飼育について①
- 7回 ウシの飼育について②
- 8回 ウシの飼育について③
- 9回 ウシの疾患について①
- 10回 ウシの疾病について②
- 11回 ブタの概要について①
- 12回 ブタの体の構造について①
- 13回 前期試験
- 14回 前期試験返却・解答
- 15回 ブタの体の構造について②

後期

- 16回 ブタの品種について、ブタの飼育について①
- 17回 ブタの飼育について②
- 18回 ブタの飼育について③
- 19回 ブタの疾病について①
- 20回 ブタの疾病について②
- 21回 ウマの概要について
- 22回 ウマの体の構造について①
- 23回 ウマの体の構造について②
- 24回 ウマの品種について①
- 25回 ウマの品種について②、ウマの飼育について①
- 26回 ウマの飼育について②
- 27回 ウマの飼育について③
- 28回 ウマの疾病について①
- 29回 ウマの疾病について②
- 30回 ニワトリの概要について①
- 31回 ニワトリの品種について①、ニワトリの体の構造について①
- 32回 ニワトリの体の構造について②
- 33回 ニワトリの飼育について①
- 34回 ニワトリの疾病について①
- 35回 後期試験
- 36回 後期試験返却・解答

授業じゆぎょう ほうほうの方法

講義

教材きょうざい

家畜動物の基礎（教科書）、自作プリント

評価ひょうか ほうほうの方法

期末試験きまつしけん80%、授業態度じゆぎょうたいど20%

授業外じゆぎょうがいでの学習がくしゅう方法ほうほう

じつむけいけん じゆぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

昆虫学 I

(授業概要)

昆虫類は地球の幅広い環境に適応しているが、その優れた能力から我々が学ぶことは非常に多く、人類が豊かな生活をしていく上で「昆虫学」という科学分野は必要不可欠である。本授業ではまず、昆虫学に関わる幅広い知識を学習する。さらに、昆虫を扱う文献や専門雑誌、論文についても学習し、必要な情報を調べる能力を習得する。

科	生命科学科	教員	西中
コース	ワイルドアニマル	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

目標

1 学期

「昆虫とは何か」を説明できる。
昆虫の食べ物について説明できる。
昆虫の住む場所について説明できる。

2 学期

昆虫の「身を守るための戦略」について説明できる。
絶滅危惧種や外来種、温暖化による昆虫類の分布の変化について説明できる。
昆虫に関する文献や情報を自分で探し、調べることができる。

授業計画

1 学期

- 1回 自己紹介、アイスブレイク、講義について
- 2回 昆虫とは
- 3回 昆虫と人との関わり
- 4回 昆虫の体のつくり①
- 5回 昆虫の体のつくり②
- 6回 昆虫の運動能力①
- 7回 課題対応
- 8回 昆虫の運動能力②
- 9回 昆虫の交信
- 10回 試験対策
- 11回 試験
- 12回 試験フィードバック

- 13回 昆虫の生殖
- 14回 楽しい昆虫採集

2学期

- 15回 夏季課題発表
- 16回 昆虫の食性について①
- 17回 昆虫の食性について②
- 18回 寄生者について
- 19回 水生昆虫①
- 20回 水生昆虫②
- 21回 海洋島の昆虫
- 22回 擬態をする昆虫①
- 23回 擬態をする昆虫②
- 24回 昆虫の飛翔①
- 25回 昆虫の飛翔②
- 26回 社会性の昆虫①
- 27回 社会性の昆虫②
- 28回 益虫と害虫
- 29回 分子情報による系統推定
- 30回 希少な昆虫について
- 31回 外来種の昆虫たち
- 32回 試験対策
- 33回 試験
- 34回 試験フィードバック
- 35回 昆虫類のホットスポットとしての里山
- 36回 1年間のまとめ

授業の方法

講義、グループワーク

教材

必要に応じて参考資料を配布する。

評価の方法

期末試験80%、授業態度・出席率20%

授業外での学習方法

授業で学んだことを復習することに加え、身近な昆虫の名前を少しでも多く覚えるよう自主的に学習する。

実務経験と授業科目の関係

大阪府立大学大学院生命科学研究科 元客員研究員。箕面公園昆虫館 元スタッフ。万博記念公園自然観察学習館 元指導員。関西大学 元非常勤講師。

生体管理概論実習

(授業概要)

主に飼育棟において、小動物や家畜動物に関する知識を応用とした飼育実践を行う。掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理といった基礎を実施する。

科	生命科学科	教員	金田・田中
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36×2時間

目標

1学期

飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。

危険予測をおこない、常に万が一のことを考えて行動することができるようになる。

一緒に活動するメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談ができるようになる。

2学期

1学期に身につけた知識および技術を応用し更に良い飼育環境をつくるために考え行動することができる。

授業計画

前期

1回 飼育管理について①

2回 飼育管理について②

3回 飼育管理について③

4回 飼育実習

5回 飼育実習

6回 飼育実習

7回 飼育実習

8回 飼育実習

9回 飼育実習

10回 飼育実習

11回 前期試験

12回 前期試験返却・解答

13回 飼育実習

14回 飼育実習

15回 飼育実習

後期

16回 飼育実習

17回 飼育実習

- 18回 飼育実習
- 19回 飼育実習
- 20回 飼育実習
- 21回 飼育実習
- 22回 飼育実習
- 23回 飼育実習
- 24回 飼育実習
- 25回 飼育実習
- 26回 飼育実習
- 27回 飼育実習
- 28回 飼育実習
- 29回 飼育実習
- 30回 飼育実習
- 31回 飼育実習
- 32回 飼育実習
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返却・解答
- 35回 飼育実習
- 36回 飼育実習

じゆぎょう ほうほう
授業の方法

講義・生体管理実践

きょうざい
教材

自作プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゆぎょうたいど 授業態度20%

じゆぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

じつむけいけん 実務経験と じゆぎょうかもく 授業科目の かんけい 関係

あり

自然環境保全学 I

(授業概要)

現在我々の生活は地球温暖化や環境汚染などの問題を抱えている。自然が再生不可能なペースで破壊され続けているのが現状である。より持続可能な社会を実現するためには、1年次は自然生態系の特性を理解することが重要である。

科	生命科学科	教員	佐崎
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36時間

目標

1 学期

我が国の森林、土壌、河川などの現状を知って理解することが重要である。自然には微力ながら浄化する能力があるが、どのようにしてきれいになっていくかのメカニズムを理論や実例を用いながら講義をしていく予定である。

2 学期

我が国の海洋（砂浜、礫浜、干潟）やマングローブ、サンゴ礁などの生態系についても、現状と問題点に触れながら講義する。またそれらの生態系に生息する生物間の関係（種内競争、種間競争）などについて具体例を用いながら説明する。

授業計画

1 学期

- 1回 日本の自然（森林：原生林、人工林）
- 2回 植生遷移（一次林～極相林）、森林が持つ機能
- 3回 国有林と民有林、拡大造林（戦後）と現在の造林の実態
- 4回 土壌の構造と植物
- 5回 西表出張の為自習（自習課題配布予定）
- 6回 様々な植物（C3植物、C4植物、CAM植物）
- 7回 西表島実習 事前授業①（地質、気候、文化）
- 8回 西表島実習 事前授業②（植生、生物の特徴）
- 9回 西表島実習 現地で講義&体験学習
- 10回 西表出張（課題対応：西表実習レポートの作成）

- 11回 窒素循環のメカニズムと河川（特徴、物理的特徴）
- 12回 自然界での川の水質浄化メカニズム①（硝化細菌と脱窒菌の働き）
- 13回 前期試験
- 14回 前期試験の振り返り
- 15回 自然界での川の水質浄化メカニズム②（硝化細菌と脱窒菌の働き）

2学期

- 16回 土壌中のフルボ酸鉄と植物、海草、海藻の関係①
- 17回 土壌中のフルボ酸鉄と植物、海草、海藻の関係②
- 18回 海洋 潮汐とは（大潮～小潮、潮上帯～潮下帯、帯状分布）
- 19回 マングローブ林生態系（種の特徴、多様性、環境特性、現状）
- 20回 サンゴ礁生態系（種の多様性、環境特性、白化現象、オニヒトデ問題）
- 21回 干潟生態系（環境特性、渡り鳥、法律）
- 22回 砂浜、岩礁海岸、草原、砂漠の生態系
- 23回 生態系サービスとは
- 24回 生物多様性とは（遺伝子、種、生態系）
- 25回 種内競争①（自己間引き、干渉型競争：なわばり・行動圏）
- 26回 種内競争②（自己間引き、干渉型競争：なわばり・行動圏）
- 27回 種間競争①（植物間、動物間：競争、捕食、相利共生、片理共生、寄生、片害）
- 28回 種間競争②（植物間、動物間：競争、捕食、相利共生、片理共生、寄生、片害）
- 29回 健全な生態系とは
- 30回 移入種とは（移入経路、在来種への影響）
- 31回 特定外来生物とは①（在来種との関係）
- 32回 特定外来生物とは②（法律での規制）
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験の振り返り
- 35回 乱獲、過剰利用①（食料、薬、嗜好品、娯楽）
- 36回 乱獲、過剰利用②（食料、薬、嗜好品、娯楽）

授業の方法

実例を紹介しながら講義（プロジェクター、コンピューター）

教材

ビオトープ管理士2級

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

本講義で学習した内容を自身でも復習して、身近な自然、生物に関心を持って観察する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

動物の生態に関する調査・研究の経験

陸上実習

(授業概要)

様々な運動競技を通して、校外実習や就職時の際に必要な基礎体力の維持・向上を図る。

科	生命科学科	教員	竹内
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	72

目標

1学期

毎授業、校舎外周の持久走や様々な運動競技を実施し、校外実習や研修旅行および就職時の際に必要な基礎体力を身につける

2学期

毎授業、校舎外周の持久走や様々な運動競技を実施し、校外実習や研修旅行および就職時の際に必要な基礎体力を身につける。

授業計画

1学期

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 3回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 4回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 5回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 6回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 7回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 8回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 9回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 10回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 11回 前期末試験
- 12回 前期末試験返し・回答
- 13回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)

2学期

- 14回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 15回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 16回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 17回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 18回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 19回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 20回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 21回 スポーツ大会競技のトレーニング

- 22回 スポーツ大会競技のトレーニング
- 23回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 24回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 25回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 26回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 27回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 28回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 29回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 30回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 31回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 32回 後期末試験
- 33回 後期末試験返し、解答
- 34回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 35回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 36回 1年間総まとめ

授業の方法

実習

教材

なし

評価の方法

期末試験80%、出席率 20%

授業外での学習方法

自宅での体力向上のトレーニングを行う。

実務経験と授業科目の関係

元アスレチックパークインストラクター (GREENIA)

飼育用品概論 I

(授業概要)

ペットショップ・アニマルカフェなどの施設において生体管理をする上で使用する機材また道具の基本的な使用方法を学習する。また、メーカーごとの特徴や用品のアレンジ方法なども理解する。

科	生命科学科	教員	山内
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

目標

1 学期

ペットショップで取り扱われていることが多い小動物の飼育方法や機材の使用方を理解し、校内の生体管理において実践できるようにする。

2 学期

生体ごとの望ましいレイアウト方法を理解し、メーカーごとの特徴を理解する。

授業計画

1 学期

- 1回 アイスクレイク
- 2回 小動物とはどんな生き物か（草食性）
- 3回 小動物とはどんな生き物か（肉食・雑食性）
- 4回 用品解説：ケージ①
- 5回 用品解説：ケージ②
- 6回 用品解説：隠れ家、寝床
- 7回 用品解説：トイレ
- 8回 用品解説：サークル、運動器具
- 9回 用品解説：遊び道具①
- 10回 用品解説：遊び道具②
- 11回 用品解説：床材
- 12回 試験対策
- 13回 前期試験
- 14回 試験返却

2 学期

- 15回 用品解説：保冷器具
- 16回 用品解説：保温器具
- 17回 用品解説：メンテナンス用品①

- 18回 用品解説：メンテナンス用品②
- 19回 用品解説：給水器、餌皿
- 20回 用品解説：牧草
- 21回 用品解説：フード（草食性）
- 22回 用品解説：フード（肉食・雑食性）
- 23回 用品解説：おやつ
- 24回 用品解説：副食①
- 25回 用品解説：副食②
- 26回 小動物の販売形態について
- 27回 系統とカラーについて①
- 28回 系統とカラーについて②
- 29回 系統とカラーについて③
- 30回 ペット保険について
- 31回 小動物の病気と診察
- 32回 ペット業界が抱える課題点
- 33回 試験対策
- 34回 後期試験
- 35回 試験返却
- 36回 授業振り返り

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

座学

きょうざい
教材

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

生体管理実習での生体管理

じつむけいけん 実務経験と じゅぎょうかもく 授業科目の かんけい 関係

ペットショップでのアクア・小動物コーナー担当経験あり